

PTA関係者と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

日時	平成30年9月27日（木）17:00～18:30まで
場所	鹿屋市中央公民館 第1視聴覚室
参加者	PTA関係者 8名
	市長、生涯学習課長、市P連事務局員 外2名

意見交換

**テーマ：保護者がPTA活動に参画しやすい社会環境づくりについて**

- 現在、市PTA連絡協議会及び単位PTAで取り組んでいること
- PTA活動への参加に関する悩みや課題
- 職場・地域等でPTA活動を理解してもらうにはどうすればよいか など

**【PTA関係者の意見】**

- ・地域規模による活動参加への温度差が大きくなっている（市の中心部になるにつれて、父親の参加が減少する）。父母と一緒に活動に参加できるのが一番良い姿だが、職場でPTA活動による休みをとりづらい現状もある。  
PTA活動に対する企業側の理解が得やすくなるような市の方策がないか。
- ・保護者・教師共にPTA離れや関与の薄まりを感じる。また、仕事の都合で活動に参加できない人たちが増えている。
- ・「PTAって何?」「(PTA活動による)メリットは?」と聞かれることが多い。
- ・PTA活動について広く周知を図れるよう、広報等を利用できないか。
- ・PTA会費を払えるのに払わない人、活動に参加しない人もいる。声かけをしても「任意団体だから参加する必要はない」と言って聞かない人もいる。しかし、PTA会費を学校の備品購入に充てたり、PTAの様々な活動が学校の運営に大きな役割を果たしたりしていることを説明していく必要があるのではないか。
- ・昔からの住民だけでなく、他地域から新しく転居してきた人が多い地域は、昔からあった地域の繋がりが薄まっており、PTA活動だけでなく町内会などの活動にも参加しない人が増えている。
- ・もし「PTAが無くなったら、保護者一人ひとりが担う役割・作業は増加し、今よりも大変になる」ということを発信していくことも必要ではないか。  
PTAがある現在は、組織の中で作業が分担化され、一人ひとりが行う作業も最小化されているが、組織が無くなると全て自分達で一から行っていく必要がある。
- ・行政や学校ができることには限界がある。そこに対してPTAが様々な活動を通して支援を行っている。子どもたちがより良い学校生活を送るために、必要不可欠である活動だということを皆で考えていくことも大事ではないか。
- ・未来のためをお願いしたい。今後親となる人たちに対して、男性の育児参加を推進するような勉強会などの機会を設けてほしい。男性が積極的に育児参加できる世の中になれば、PTA活動に積極的に参加する男性も増えるし、企業側も好意的になるのではないかと思う。

## 【市長】

- ・ P T Aに限らず、町内会なども加入者が減少しており、様々な団体が同じ悩みを抱えている。
- ・ P T Aの活動は子どものための活動であるが、それは保護者がしなければならないものなのか？保護者でなくても、例えば退職後、家にいる地域の人たちなど幅広い人たちにボランティアで行ってもらってもよいのではないか。
- ・ P T Aの活動と他の団体の活動には重複するところもあるため、様々な団体と連携することにより、役割分担ができるのではないか。
- ・ 様々な活動を行う際、学校（子どもたち）が中心となって校区単位で色々行うのが理想的ではないかと考えている。
- ・ P T A活動に参加しない保護者の参加を促すために、子ども同伴の活動を増やしてみたらどうか。まずは1回参加してみて、それが楽しかったら次に繋がっていくのではないか。
- ・ これまで積み上げてきた実績・活動を見直すことで、会員に説明する際のツールとなるのではないか。
- ・ P T Aが重要な役割を担っていることを改めて考え直し、P T Aが無くなった時に学校運営にどのような支障が出るのか、原点に戻り、リセットすることも重要なことである。
- ・ 今後、市P連と教育委員会が連携して、新しいP T Aの在り方の模範となるようなP T Aの情報などを取り入れ、研究し、モデル的に取り組むところ（P T A）があれば、人的・財政的な支援を行うことも検討したい。話し合い等を数多くする必要もあるかもしれないが、そのような中から新しいP T Aの在り方が生まれてくれば良いと思う。

## 【市・生涯学習課】

- ・ 地域の繋がりが昔に比べて希薄になっており、それがP T A活動への参加率の低下に繋がっている。どうやって地域と親しくなっていくか。地道な活動が地域との繋がりを作ることに繋がるのではないか。
- ・ 生涯学習課では、将来親になる世代（中高生）を対象として、市内保育園に協力をいただき「保育体験講座」を実施している。これは保育体験や保育士の話を聞くことを通して、子どもの特性を知り、子どもを育てることの重要性を理解するとともに、子育ての楽しさや家族の大切さについて考えるきっかけとすることを目的としている。今後も子育て支援課など関係課とも連携を図りながら、将来に向けた取り組みを行っていききたい。
- ・ 最近「P T A」ではなく「P T C A」と言って、親・教師・地域の活動として取り組むことも増えてきた。今後は全てを保護者だけで行うのではなく、地域と連携することによりP T A活動を活性化することも大事だと思う。